

みかどづか こうしんぼうづか  
帝塚と庚申坊塚

(石浜)

いしはま ぞうふくじ ひがし みかどづか よ  
石浜の増福寺の東に、「帝塚」と呼ばれる  
ごりんとう ちい ほんち  
五輪塔があり、そばに小さな祠がまつつてあり



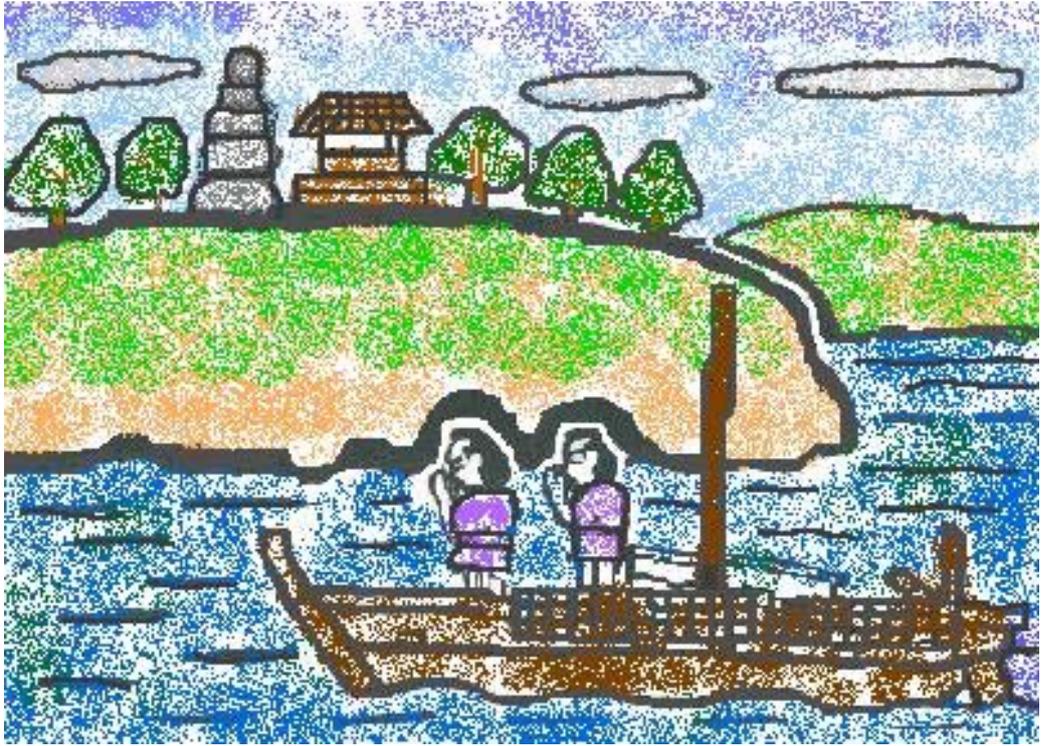
▲ みかど づか 帝 塚

ち たはんとう どうがん なんぼく つう ふる  
ます。ここは、知多半島の東岸を南北に通じる古  
どうろ  
い道路のあったところで、むかし、ある身分の高  
みぶん たか  
かた とお ととき きゆう びようき  
い方が、ここを通りかかられた時、急な病気で  
なくなられ、この地にはおむったところだと伝  
つた  
えられています。それは、南朝の皇族の方だと  
なんちよう こうぞく かた  
も言われています。

ち たかだい  
この地は高台になっていて、むかしは、その  
した うみ はい こ  
すぐ下まで海が入り込んでいたので、行き来の  
いきき  
ふね みかどづか なが  
船から、よく帝塚が眺められました。

みかどづかした  
「おおい、帝塚下にさしかかったぞう。」

ほ お  
「そうれ、帆を下ろせやあい。」



船頭の声が海の上に響きます。すると、そのまま

でに風をはらんで張りつめていた帆が一度にし  
わになり、きりきりと滑車をきしませて下ろさ  
れます。そして、船乗りたちは、それぞれに手を  
合わせ、帝塚に向かって、航海の安全を祈るの  
でした。

むかしは、帝塚下を上り下りする船は、みんな  
なこうして帆を下ろして帝塚に敬意を表して  
通り過ぎたものだそうです。

この帝塚より増福寺を越えた西方百五十メ  
ートルほどの畑の中にも、五輪塔がいくつか並  
んで建っています。これも、むかし、身分の高い



▲ こう しん ぼう づか  
庚 申 坊 塚

方<sup>かた</sup>がこの地<sup>ち</sup>でなくなられた墓<sup>はか</sup>だといわれ、  
「庚申坊塚<sup>こうしんぼうづか</sup>」と呼ば<sup>よ</sup>れています。